

# 青郷小だより

令和4年 6月号  
高浜町立青郷小学校



## みんな一緒



築山のヤマボウシが淡い紅色の花を咲かせ、子ども達の制服が鮮やかな白色に変わり、夏の訪れを感じるようになりました。

1学期が始まってしばらくした頃、1年生が目には涙をため登校してきました。「どうしたの？」と声をかけようとしたとき、その子の様子に気づいた6年生の女の子が、

「みんな、さびしい気持ちはあるで。心配せんでも、みんな一緒やで。」と、その子に声をかけました。

それを聞いた1年生は、だまってうなずき、涙を手でふいて、校舎に入ってきました。

6年生がやさしい声をかけてくれたので、何も聞かずに、教室に向かう1年生を見送りました。

それからしばらくして、ネットニュースで、ある投稿記事を読みました。

その記事は、ある保護者が、我が子が小学校1年生だったときのことを、思い出したものでした。

我が子が1年生になって 初めての保護者会  
まわりには まだ名前も知らない保護者が多くいました  
机の上には 何も書いてない 1枚の紙が置かれていました

担任の先生が あいさつもそこそこに 指示を始めました  
「これから 私の言うとおりに 紙を折ってください」  
何のために紙を折るのか分かりませんでした が 指示が次々と出されるので  
保護者はみんな ときどきしながら 時々隣の人の様子を見て  
紙を折っていきました  
最終的には 三角すいの 名札が出来上がりました

「今 ときどきしました？ 上手くできるかな？ 隣はどうかかな？  
と 思いましたか？」 担任の先生が 保護者に尋ねました

「子ども達は みんな同じ気持ちで がんばっています」  
「毎日 すごく緊張しながら 多くの友達の中で がんばっています」  
「小学生になったから できて当然ではなく 毎日がんばっているね」  
家では そんなふうに 子ども達をつつみ込んでください

(裏面に続きます)

あのときの6年生の女の子は、大好きな父母から離れ、まだ慣れない小学校生活を送る1年生の不安な気持ちに共感して、声をかけてくれたのかもしれませんが。今では、その1年生の子は、毎日笑顔で登校してくれています。

「子ども達が、これをできるようにさせたい。」  
「子ども達の力をもっと伸ばしたい。」

そう思うあまり、「できて当たり前」「なぜ、できないのか」という気持ちになってしまうことがあります。1学期が始まって約2か月、どの学年の子ども達も確実に力をつけ、成長しています。

これからも、結果だけにこだわるのではなく、目標に向かってがんばる子ども達の姿や、上手くできなかつたり、思い通りにならなかつたりしたときに、子ども達の心に寄り添うことができる青郷小学校でありたいと思います。

〈その投稿記事に、多くの保護者から反響がありました〉

「これからは、子どもが帰ってきたら、まず笑顔で抱きしめます！」  
「何かができなくても、チャレンジした我が子を誉めたいと思います。」  
「小学校に行って帰ってくるだけで、100点満点！」



## 「家庭訪問」 「通知表」 について

〈家庭訪問について〉

以前には1学期に家庭訪問を実施しておりましたが、訪問期間中にはお仕事の都合を無理に変更して、対応していただいたご家庭も多くあったことと思います。

そこで、昨年度から日時を設定しての計画的な家庭訪問は実施せず、学期末保護者会の個人面談で、お話をさせていただくことにしております。

なお、必要な場合には、年間を通していつでもご家庭を訪問させていただきますので、ご相談等があるときには、ご遠慮なく担任までご連絡ください。

〈通知表について〉

これまで、通知表に記入していた「所見欄」を廃止し、「所見欄」の代わりに、子ども達との教育相談等を充実させ、きめ細かい指導・支援に努めていきます。

また、保護者の皆様には、保護者会の個人面談の際に、お子様の学習や生活の様子について、詳しくお伝えすることにいたします。

どうぞ、ご理解とご協力をお願いいたします。

※ 子ども達の学校生活の様子をブログでも紹介しています。  
ぜひ、ご覧ください。

〈 <http://seikyo.takahama-town.com/> 〉



〈QRコード〉